

## 平成28年度大阪府立八尾支援学校 第3回学校協議会報告

平成29年3月10日

□日 時 平成29年2月14日(火) 午前10時～12時

□場 所 大阪府立八尾支援学校 多目的室2

□テーマ

- ・平成28年度学校教育自己診断結果について
- ・平成28年度学校評価報告(案)について
- ・平成28年度学校経営計画及び自己評価(案)について
- ・キャリア教育PT報告
- ・合理的配慮アンケート
- ・居住地交流について
- ・第3回授業アンケートについて

□学校協議会委員

岡崎 裕子	(大阪大谷大学 教育学部 教授 学長補佐)
奥野 美和子	(東大阪子ども家庭センター 課長補佐)
御前 敬	(八尾市障害福祉課 課長)
佐藤 早苗	(東大阪市療育センター 第一はばたき園 園長)
西原 直美	(本校PTA 会長)
山崎 高義	(東大阪市障害者就業・支援センター 所長)

□学校協議会事務局

渋川 雅宏	(教頭・小/高)	山田 美也子	(教頭・中)
小林 俊雄	(事務長)	荒木 智恵子	(首席)
井川 忠都	(首席)	横山 眞二	(首席)
山本 耕平	(首席)	松村 由美	(部主事・小)
長谷川 次郎	(部主事・中)	谷 浩美	(部主事・高)

□協議会 内容

### 1 学校長挨拶

本日はお寒い中にもかかわらず、本校においでいただきありがとうございます。今年度最後の学校協議会ということでよろしくお願ひします。今年度ご助言いただきましたことを、来年度は本校の50周年となりますので、しっかりと活かしていきたいと思ひます。

まず、最初に二点についてご報告申し上げます。

- ① 昨年の体育館の壁の剥離の事象については、冬季休暇中に修繕工事をして始業式に間に合いました。

- ② 食物アレルギー、体罰防止など真の人権教育の具現化に向けて、学校へのご助言をお願いします。

## 2 第2回 学校協議会 議事録について確認 (P2～6)

### 3 平成28年度学校教育自己診断について (P10～)

- ・提出率は保護者が昨年より5%上昇して88%になり、教職員は1%上昇して100%になった。生徒は4%下降して63%となった。
- ・達成度に関する結果・分析では、生徒向けで11項目中8項目達成できた。特に「人権に関わる内容」が70%を超えた。しかし、残念ながら「学校のできごとをよく話す」・「授業は理解しやすい」・「進路についていろいろと教えてもらえる」に関する項目は70%に達していない。より分かりやすい授業になるよう向上して行きたい。
- ・保護者向けでは、すべての項目で70%を越えた。中身としては、「防災の取り組み」で個人備蓄の備えなどから関心が高まった。「キャリア教育」に関する項目では、進路だよりや進路懇談会、またライフスキルのアンケートなどで理解が進んだ。「企業実習・作業所実習」に関する項目では、少し下がった。学校としては力を入れているが、福祉制度など内容が複雑なところもあると思われるので、これからもわかりやすく説明していきたい。
- ・教職員向けでは、保護者向けと共通した内容の項目で70%越えた。しかし、保護者と差がある項目（「人権尊重にもとづいた指導・配慮」「キャリア教育」「交流教育」）について、今後も重視して行きたい。
- ・教職員の仕事関係では、39項目のうち36項目が70%に達している。「労働衛生環境」に関する項目で数値が下がっている。これは、教職員の勤務実態が厳しいことを示している。昨年、デイサービスのための南東門を設置し、ひとまず休憩時間は確保できた。「施設・設備」に関する項目では、平成30、31年度の大規模工事で少しは改善されると思う。
- ・否定的意見の数値が高いもの（20%以上）  
教職員の業務のところで、今年度分掌の改編があったので大変な面もあったと考えられるが、今後は落ち着いていくのではないかと。しっかり検討して改善に努めたい。また、教職員間の連携として、チームティーチング（T・T）におけるコミュニケーションを大切にしていきたい。ICTにおける古くなったパソコンの動きの不具合などを改善したい。校内の清掃も力を入れていきたい。
- ・保護者の記述回答では、施設の改善と駐車場の意見が多く出ていた。小学部では不審者対応、高等部では、プールでのラッシュガード着用のことが出ていた。
- ・教職員よりはスマートフォンの使用について注意喚起があった。

#### 【質疑応答、ご意見】

Q：放課後デイサービスを使う児童生徒の安全確保ができてよかった。「授業は理解しやすいですか」の問いに否定が多かったようだが、教材教具も含めて合理的配慮で学校として工夫しているところはどんなものがあるのか？（委員C）

A：放課後等デイサービスの車専用の南東門を作ったので、以前はスクールバスと出入りが同じ

で混乱していたが、解消することができた。教師の休憩時間も確保できたことは大きい。(校長)

A: 教材や課題が子どもの実態に合っていないのではないか? 授業作りで、T・Tとの連携で視覚的支援の工夫が必要だと思う。どういう教材が子どもたちに合っているか。自立・社会参加を目標にして考えていきたい。(准校長)

ご意見:「わからない」ことを言えるのは良いこと。メタ認知ができています。どこがわからない? これのほうができるかな?という問いかけをして努力していただきたい。情報を共有することは必要である。

(委員 A)

Q:「人権尊重」について教師と保護者との認識の差が大きい。どう受け止めているか?

(委員 D)

A: 教師は約90%、保護者は約70%という結果に対して、「丁寧な言葉で話す」また、「丁寧な対応をする」ことを体罰防止研修などワークショップ型の研修をして注意喚起している。T・T間の相互の注意喚起ができにくいところが大きな課題だと感じている。(校長)

#### 4 平成28年度学校評価報告(案)

校長

- ・合理的配慮に関するアンケートをとる。教育課程の改編・実施をする。  
子どもにとってわかりやすい授業ということで、ICT機器を増やして、使用していく方向で考えている。
- ・校務分掌を6分掌に再編した。  
教師間の風通しを良くする。
- ・キャリア教育・ライフスキルを日々の授業にどう活かしていくか。
- ・センター的機能として、拠点型巡回相談を八尾市・東大阪市で行った。
- ・教師が施設面を点検し、修繕する意識を高める。
- ・学校をきれいにし、大切に使う意識を持つ。

准校長

- ・平成29年度から教育課程を変更し、教科学習を強く打ち出す。
- ・キャリア教育とは何かをみんなで考えた。
- ・センター的機能  
高等学校への支援が増えてきた。  
支援学校の教員も他校の様子を知ることは大切
- ・人権研修、食品アレルギーに関する研修に力を入れてきた。
- ・安全点検は、一人一役として、自分の分担を責任を持ってする。

平成28年度学校経営計画及び自己評価(案)について(資料P22~)

校長

1. 目指す学校像 2. 中期的目標 は大きく変わらず。

※ については、3年を見通して書いている。

- 今年度行ったアンケートを活かしていく
- 小・中新学習指導要領のねらい、内容を踏まえ具体化して、教育課程表を活用する。
- 「キャリア教育発達段階表」を活用し、効果測定を行う。
- 地域支援室  
メール相談、電話相談のシステム構築、次世代コーディネーターを育成する
- 人材育成→若手がリーディングスタッフ等と同行して研修を積み重ねる  
→職員会議前に短時間の研修講師として伝達
- 来年度50周年に向けて花を増やしていくプロジェクト始動  
温室でチューリップを育て各場所にプランターを置くなど

准校長

- 授業の取り組みに力を入れて「キャリア教育発達段階」指標を活用
- ICT の活用についての研修が大切
- 管理職の思いを次回職会で伝えていく

【質疑応答、ご意見】

ご意見：自己診断の結果をしっかりとらえて、学校経営計画に反映されている（委員 A）

Q：リーディングスタッフ（LS）と特別支援コーディネーター（Co）の違いは？（委員 D）

A：LS は授業時間の8時間軽減があり、府の専門研修を受ける（2名）Co を率いていく立場。

LS は大阪だけの制度で、Co も地域支援に携わる。（校長）

A：LS は主に地域支援が主体（外部講師や相談業務）

Co は校外に出ることもあるが、校内研修（ケース会議）も行っている。

関係機関との連携はLS、市のLSは授業軽減がかつてはあったが今はない。（首席 A）

A：LS・・・地域支援（地域の相談業務） Co・・・校内支援

高校の地域支援のニーズも増えてきている。

支援学校のセンター機能を広めていけるか？ →今年は通信を発信（首席 B）

Q:地域支援室の認知度はどうか？ →どのように地域に周知しているか？（委員 C）

A:地域支援室の周知はまだできていない。拠点校型ケース会議を八尾市と東大阪市で行うこと  
によって、少しずつこのような相談の形があると知ってもらえたらというスタンス。（首席 B）

A：地域支援室は校内で部屋を用意しただけで、まだ設備が整っていない。

校内の授業力向上がメイン（校長）

5. キャリア教育 PT・・・別紙1-1、1-2

1-1 キャリア PT（首席 B）

- 全てのクラスで実施

- ・資料の吹き出しは教員からの意見
- ・3月に意見を元に使いやすい指導を提案したい。現在作成中。
- ・キャリア教育は企業就労だけではないことを全職員に伝えていきたい

#### 1-2 ライフスキルアンケート（首席 A）

- ・提出率がとても高い
  - ・無記名でも良いとしていたが、50%以上の保護者が記名していた
  - ・子どもの実態を担任に知ってもらいたい思いが出ていたのではないか
  - ・今子どもにつけたい力は？という意味であったが、保護者としては全部身につけてほしい思いがあり、全部○をつけた方が多く、パーセンテージが全体に高めに出了
  - ・こちらから提示したチェック項目以外にも、たくさん必要なスキルを書いていた
- 【質疑応答、ご意見】

ご意見：項目が多い。わけがわからなくなる。各項目に相関性がある。

次にどのようなことができればという指標として使っていける。（委員 A）

#### 6. 合理的配慮に関するアンケート（首席 C）・・・ 別紙2 昨日アンケート締め切り

- ・義務化ということで、実施されている
- ・保護者と共有しながら配慮をするが、今までもやってきたことなので、教員はほぼわかっている。
- ・事前にプレゼンをして研修を行った。何を優先的に配慮するか、保護者と合意形成をはかり、提供をしていくということを述べた。
- ・アンケートの回収としては、全てのクラスから1件提出してもらった。
- ・他の合理的配慮を知ることができるのがメリット。これからまとめに入る予定である。

【質疑応答、ご意見】

Q: まとめの報告は来年ですか？（委員 A）

A: そうです。（首席 C）

#### 7. 居住地交流進捗状況について（資料 P18）

- ・昨年度より増えてきている。特に中学部は去年の2倍。
- ・小学部は支援学級の学年との交流会、中学部は行事への参加、通常学級での授業や食事に参加。

【質疑応答、ご意見】

Q: 支援学校はすべて実施しているか（委員 A）

A: そうです。本校では、付き添いは首席がしている。学校によってスタイルは様々（校長）

A: 八尾は進んでいて、他校へ教授することも多い。

#### 8. 第3回授業アンケートについて（資料 P19~22）

- ・概ね良い意見をいただいているが、そうでない記述意見も中にはあり、授業主导者にその

旨返して行きたい。

【質疑応答、ご意見】

ご意見：エビデンス、アンケートの集計分析について努力を感じる。これを指導にどうつなげていくかが大切。また、組織の中で反映させるのが大切。今後に期待する。（委員 A）

9 准校長挨拶

本日はどうもありがとうございました。第三者の意見を聞かせていただくことが大切と考えております。

10 閉会 諸連絡

今回、傍聴者4名